# ひたすら人民のために

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ110(2021)

# ひたすら人民のために

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ110(2021)



朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式及び平壌市民パレードに出席し、
歓呼する群衆に応える金正恩総書記
（2015年10月）



羅先市被害復旧戦闘場を現地で指導する金正恩総書記
（2015年9月）



平安南道陽徳郡内の温泉地区を見て回る金正恩総書記
（2018年8月）




倉田通りに新居入りした勤労者の家庭を訪ねた金正恩総書記
（2012年9月）




平壌建築大学を現地で指導する金正恩総書記
(2013年11月)



椒島防御隊の軍人家族と共にいる金正恩総書記
（2012年3月）



平壌育児院、愛育院の子供たちと共にいる金正恩総書記
(2015年1月)

# まえがき

今、朝鮮は全国が創造と建設で沸いている。建設がめざましい勢いで進み、国の至る所で新しい市街が次々に建設されており、軽工業の振興が特にめざましく、わずか数カ月にして軽工業工場が競って立ち上がり、しかも生産の現代化、知能化、無人化が積極的に推進されている。農業においても科学的農業、種子革命の普遍化が進められ、生産が飛躍的に伸びている。水産部門も躍進の一途をたどり、「異彩魚景」なる新語が生まれるほどの盛況である。のみならず、文学・芸術部門、保健医療及び教育部門にも新たな転換が起きている。

以上のような成果は、人民の生活水準を高め、豊かにする道につながっている。多段的・連続的な発展を遂げている朝鮮のこの刮目に値する驚くべき現実の根底には、朝鮮労働党総書記・朝鮮民主主義人民共和国国務委員長金正恩（キムジョンウン）同志の、人民のためにすべてを尽くす気高い精神、言い換えれば、人民に滅私奉仕する精神が宿っている。

人民への滅私奉仕、それは文字通り、わが生命をかけて人民の幸福を守り高めるということである。滅私奉仕というこの概念は、人民の幸せを願ってやまない金正恩総書記により、朝鮮の社会に改めて確立された今一つの時代語である。

金正恩総書記のこれまでの滅私奉仕の道のりをたどってみると、総書記が人民のためにいかに心を致し、温かくいたわり、思いやったかということが理解できるであろう。

そのすべてを本書に込めることは到底無理であり、その一部をここに紹介するほかない。それらを通して読者の皆さんが、金正恩総書記の人民観と滅私奉仕の世界がどのようなものであるかを多少なりとも理解して下さるなら幸いである。

# 目　次

# 気高い人民観

## 誓い

2012年1月のある日、金正恩総書記は、日とともに金正日（キムジョンイル）国防委員長への人民の慕情が高まっているとして、幹部たちにこう語った。

**「今もって金正日同志の霊柩車の行列の後を追い、前を遮り、泣き崩れていた市民たちの姿が忘れられません。それは指導者と人民が一つの運命共同体をなしているわが国の真の姿です」**

一同のまぶたには、号泣しながら金正日国防委員長の霊柩車の後を追い昏倒する人たちさえいるのを目撃して、血涙をしぼった永別式の場景が昨日のことのように浮かんだ。

永訣式の涙ぐましい光景を思い起こし、指導者を慕うその気持ちがほかならぬ一心団結を意味するとして、金正恩総書記は、自分は永訣式に関するビデオ資料を編集する際、それらの資料をもありのままに入れるようにすべきだとしたとして、こう続けた。

**「それらの画面を見て、全世界はきっと驚嘆したことでしょう。金正日同志がおっしゃったように、わが国の人民のように優れた人民はこの世にいません。私は今回の大国喪を通して、わが人民軍将兵と人民について一層はっきりと知るこ**

とができました」
　永別の沿道で発露された人民の気高い思想感情と道義心について総書記は、このように高く評価した。
　南朝鮮の一政治評論家は、「北の2012年が語る真理」で次のように述べている。
　「涙の向こうに見た最高指導者
　北の住民が慈父として信頼しながら生きた指導者を失い、どう立ち上がるだろうか。天地を震撼させた悲哀の号泣と川となって流れる涙をとどめることができようか。これが進歩的人類の憂慮であった。しかし、長年『刹那』をうかがっていた敵対勢力にとっては、対北プログラムを適用しうる絶好のチャンスであった。一心団結している国の姿を60億の視野から消してしまうのが彼らの夢であった。しかし、当時のテレビ中継は、北の『凋落』を予言して、追慕行事に冷水を浴びせていたえせジャーナリズムの影を薄めてしまった。いくら目を大きく開いてみても、到底内部の亀裂を見出せなかった。むしろ現出するのは一層結束する姿であった。あの時、テレビの視聴が可能でなかったとしたら、世界は指導者の死に全人民が涙にむせぶ状況を見ることも、あれほど純潔無垢の信頼心があったということも知るよしがなかったであろう。「体を温めるためのバス」や診療所などで熱いお茶を飲みながら人々が弔意を表する国、野外で通夜に立つ若者たち

に防寒帽をかぶらせ、手袋をはめさせて健康を気づかう特異な人情を目撃することもできなかったであろう。しかもタクシーが病弱者を無料で乗せて走ったということを信じうるだろうか。けれども、これらすべてのことが間違いのない現実であった。世界の1万2000余のジャーナリズムは道義を守る国民のために、かかる措置を講じた人物が、最大の悲哀に包まれていた金正恩最高指導者であるというニュースを先を競って洪水のように流した。世界は通夜に立ち、涙で舗石を濡らしていた人たちが一睡もせずに職場へ向かう姿を通じて、魔術的な力を凌駕するその愛を見た。78年ぶりの襲来だという12月の厳しい寒さに凍り付いてしまうかとされた北は、このように耐え抜いた。耐え抜いたばかりでなく、一層固い結晶体として表面化した」

　このように金正日国防委員長と永別したあの日の沿道を感慨深く思い返した金正恩総書記は、次のようにその胸中を語った。

　**「われわれの軍人や人民を抱きしめ、背負いもしたいのが私の率直な気持ちです。われわれの軍人や人民はどんなにおぶって歩いても疲れはしないと思えます。私は金正日同志の気高い志を体して、生涯軍人や人民のために足がすり減るほど走り、また走る人民の子になろうと思います」**

## 高潔な人生観

2015年10月10日、朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式及び平壌(ピョンヤン)市民パレードに先立ち、金正恩総書記は意義深い演説を行った。

ここで総書記は、わが党の力は即ち人民の力であり、わが党の偉大さは即ち人民の偉大さであり、わが党が遂げた勝利は偉大なわが人民の勝利であるとし、人民という名を繰り返して朝鮮労働党の70年の歴史を総括した。

朝鮮の国防工業が遂げた成果などについての言及がなされるだろうとの予測は完全に覆された、意味の深い演説であった。総書記は演説を次のように格調高く締めくくった。

**「世界は、朝鮮労働党が偉大な人民の力と英知を余すところなく発揮させて強盛・繁栄の天下第一の強国、白頭山大国をいかに建設するかをはっきりと目にするでしょう。**

**聖なる朝鮮革命の名とも言えるし、70年の勝利の歴史とも言える人民を天のごとく見なす偉大な朝鮮労働党が革命を牽引する機関車となり、歴史の転轍機を握っているがゆえに、チュチェの革命偉業の大路は永遠に勝利と栄光の道となるでしょう。**

**すべての党員の同志たちに呼びかけます。**

**ともに偉大な人民のために滅私奉仕しましょう！**

**不敗の党、朝鮮労働党の周りに一心団結した偉大な朝鮮人民万歳！」**

金正恩総書記の熱烈なアピールに応えて、声を限りに「万歳！」を叫ぶ市民の歓呼の声は、青く澄んだ10月の大空に響き渡った。

歴史的な党創立70周年を慶祝する演説であったから、当然、朝鮮労働党万歳の声が高らかに上がるものと思っていた人たちは、またまた驚いた。

当時、世界の国々の出版、通信、放送は一様に「人民に始まり人民に終わった、人民のための演説であった。金正恩第１委員長が25分間行った演説で、人民を97個も繰り返した」と特筆大書し、有史以来人民が初めて受けた情の告白であり、世界が初めて聞いた人民愛の演説であったと激賞した。

また、「『人民に対する感謝』に始まり、『人民に対する滅私奉仕』の語で締めくくった演説」だとして、朝鮮の一心団結の源泉は金正恩第１委員長の人民愛の政治であると評した。

後日、金正恩総書記は幹部たちに、10月の意義深い慶祝の演壇で朝鮮人民万歳を唱えた時の心情を次のように語っている。

**「わが党が長い70年の歳月、祖国の青史に勝利と栄光のみを刻むことができたのは、ひたすらわが党を信頼し、支えてきた偉大な人民がいたからです。これまでわが人民は、常に党にわが運命を託し、党を信頼し、支えてきたのであり、党**

の呼び掛けならば山をも移し、海をも埋める英雄的闘争精神と気風をもって党の路線と政策を貫いてきました。党の路線と政策を寸分も違えることなく、無条件あくまでも貫く偉大な人民を有していることはわれわれの誇りであり、最も大きな力です。幹部たちは、人民のためならばわが一身がたとえ一粒の砂になり道ばたに倒れるようなことがあっても、それ以上に望むことはないという高潔な人生観を持って人民のために滅私奉仕しなければなりません」

## 否決した事柄

2012年2月16日付けの『労働新聞』には、金正恩総書記が、満浦（マンポ）市の住民一同から送られた手紙に対する返書が掲載されている。

「慈江道党責任書紀、

満浦市党責任書紀

金正日同志の恩情によってもたらされた新住宅に入居して満浦市民が大喜びしているということですが、私はこの手紙を本当に嬉しく読みました。今後、道党及び満浦市党委員会の幹部たちは、金正日同志の恩情が新築の住宅と共にいつまでも伝えられるようにし、常に人民の生活問題、隘路に細心の配慮を寄せて即時解決し、人民の利益を第一位に置いて一

切の活動を展開することで、わが党の人民的施策が金正日同志の尊名と共にとこしえに花開いていくようにしなければなりません。満浦市が金正日同志の銅像の建立に取り組む軍人たちに、心をこめて精選した白米100トンを送るということですが、その誠意に感謝します。心から感謝します。しかし、この問題は誠意のみを受けて謝絶します。

領袖と血縁的関係をなすわが人民が領袖に捧げるこの白玉のような心は、私がそのまま金正日同志に報告します。

私は道党と市党の活動家たちが、人民の利益と幸福のために生涯のすべてを捧げた金正日同志の人民愛の崇高な志を体して、彼らが申し出た白玉のような白米を、金正日同志の恩愛として市内の人民と子供たちにそのまま贈ってもらえたらと思います。

必ずその通りに実行して下さい。

満浦市民の手紙を読んでみて、本当に力が湧き、一層発奮して革命に取り組もうという決心が固くなります。

金　正　恩

2012．2．14」

鴨緑江(アムロク)の岸に位置する満浦市は朝鮮北端の都市である。その数年前、満浦市の処々を見て歩いた金正日国防委員長は、社会主義の本態が生きている都市だとして、市を一層立派に整備するための方途を明確に教えた上、満浦市を社会主義朝

鮮の国境都市にふさわしく、見栄えよく建設するよう、戦闘力ある軍人建設者たちを差し向けたばかりでなく、建設に必要な一切の措置を最優先的に講じた。

軍隊と人民が力を合わせて昼夜を分かたぬ突貫工事に取り組んでいた最中に、彼らは金正日国防委員長の逝去の悲報に接し、血涙にむせんで建設をいったん中断していた。

金正恩総書記は、金正日同志の遺訓である満浦市の住宅の建設をいっときたりとも中断すべきではないと指示した。こうして、着工後わずか80数日にして、鴨緑江畔に今一つの社会主義仙境が立ち上げられ、同日、同時に345世帯もの、平凡な労働者、事務員、戦傷栄誉軍人、除隊将校などの家族が新居入りをした。

こうして彼らは、金正日国防委員長の恩情に深く思いを致しながら心をこめて白米100トンを特選し、金正恩総書記に感謝の手紙を送ったのであった。

金正恩総書記の上記の返書は、幹部たちをして、人民を天のように重んじ、人民のために献身することを第一の義務と心得るようにする重要なモーメントになった。こうして、幹部たちの人民への滅私奉仕の気風はより一層強く確立されていったのである。

# 人民の幸福のために

## 道ならぬ道を歩いて

2013年5月、金正恩総書記は建設中のある育種場を視察した。

昼休みの時間で、働く人たちの影もなくひっそりとした建設現場に、出迎える人もなく静かに入ってきた総書記の姿を見て、建設現場の幹部たちはその意外な訪問にあわてた。

総書記は前年の3月と4月、人民軍の諸部隊が生産性の高い優良品種のボーアヤギを飼育して、食肉の問題を大きく解決する今一つの構想を示していた。

その数カ月後、ある総合牧場を現地指導した際、関係幹部たちを集めて、軍人たちに食肉を食べさせるためには骨を惜しむべきではないとして、育種場を建設し、わが国の気候風土に馴らした優良品種のボーアヤギの飼育管理法を完成するようにとの課題を与えた。

今回訪れたのは、その課題を果たすべく建設を進めている育種場であった。

総書記は建設現場の幹部たちの手をいちいちとり、道が実に険しい、肩まで痛むと言って両手で肩を叩いた。

以前そこには道路がなかった。育種場の建設に際して臨時の道路が作られてはいたものの、険しい崖をくねくねと回る

道で、しかもそこには大小の砂利が敷かれているので歩くのもたやすくない、文字通り道ならぬ道であった。その上、当時思わぬ大雨に降られて道は見る影もなくすさんでいた。

幹部たちが、そんな道ならぬ道を来られるようにしてしまって申し訳ないと謝ると、総書記は笑って、いや、気にすることはない、ちょっと苦労はしたが、今日ここへやって来てよかったとして、建設の進行状況について質問した。

現在進めているヤギの畜舎と研究所、従業員用住宅の建設状況と牧野の造成状況について具体的な説明を受けた総書記は、育種場を思い切りよく大きなスケールで建設しているのはよいことだとして、建設現場をずっと見回した。広々とした牧野や屏風のように連なる山々のふもとにきれいに並び立つ建物を眺めるその表情には、喜ばしげな微笑が浮かんでいた。

総書記は、周りの山々に広がる牧野やわが姿態を明瞭に現している建物を見ると実にいい気持ちになると喜ばしげに言った。しばらく建設現場の全景を見はるかしていた総書記は、人民軍は党の意図に従い、この育種場を全国のモデルに、世界的なレベルで立派に建設しなければならないと強調した。そして、牧野の造成、道路の舗装、獣医・防疫に至るまでの一連の問題について具体的な指示を行い、ここでは肉とミルクの生産は行わず、ボーアヤギその他優良品種の草食

畜類を大々的に育種して軍部隊はもとより、平安北道(ピョンアン)その他の道にも供給することだと言った。この指摘には、ここでは肉類の生産実績にかまけることなく、人民と軍人により多くの食肉を行き渡らせるよう、強力な畜産の土台を築くことに力を入れるべきだという意図がこもっていた。

総書記は、ではボーアヤギの畜舎の建設場を見てみようと言った。幹部たちはその言葉に当惑した。そこまで行くには車が１台ようやく通れるほどの細いくねくねした石ころだらけの泥道をひとしきり行かなければならないのである。みんながどうしたものかと顔を見合わせていると、総書記はそんなことにはお構いなく車に乗った。みんなはやむなくその後に従った。ひどい道だった。時には車がぬかるみの中で空回りしてやっと抜け出すことも２度、３度。石ころだらけのでこぼこの道で車が上下に揺れるたびに、幹部たちはひやひやした。後に続く車がぬかるみにはまり長いことぐずぐずした末にやっと抜け出しもした。

このように苦労して一行は谷の奥のヤギの畜舎に到着した。車を降りた総書記は、今来た道を振り返ってみて、いやあ、なんてひどい道だと言った。

総書記は、新牧場から戻ったヤギの群れを見たあとで帰ることになった。育種場の一幹部が、こんな険悪な所にお迎えしてまことに申し訳ありませんとお詫びした。総書記

は大様に一同を見回して、皆さんは私を昼食時がずっと過ぎるまで長いこと道ならぬ道を歩くようにさせてしまって本当に申し訳ないとし、実は私に完成した育種場を見せようとしていたと言ったが、育種場をきれいに仕上げた後になって見に来たのでは決して意味がありません、建設の最中に来て見れば、建設に差し支えが生じている問題がなんであるかを知ってすぐに対策を講じ、建設をよりよく進めるための方法も考えて教えることができるではないかとして、こう続けた。

**「私は今後も、軍人や人民のために一生遠くも険しい愛国・献身の道を歩まれた金正日同志の足跡をたどる思いで、ここより以上に険しく危険な所へも残らず行ってみるつもりでいます。私がきちんとした道を持つ所ばかり見て歩いては、いつまで経っても軍人や人民に豊かな生活を整えて提供することはできません」**

## 誰も代行できないこと

2013年7月1日、金正恩総書記は朝早く、人民軍の某部隊が進めているある建設現場に向けて車を走らせていた。

総書記は現地指導のスケジュールが詰まっている場合は、予定された対象の視察を午前と午後に分けて行うというふう

にすることなく、連続して進めうるよう時間を組むことだと指示していた。そんな日は、握り飯を用意して、途中で簡単に昼食を済ませたり、何も食べずに先を急ぐなど、人民や軍人への献身と労苦の道を絶え間なく歩いていた。

この日も、予定された建設現場は2カ所であったが、さらにもっと見ようとするかも知れなかった。ともかく朝早く出発したことからしても、非常に急いでいることは確かである。

現場に到着してしばらく経った時、総書記は、午前中にさらに二つの対象を指導したいとして、あらかじめ計画されていた対象の指導を終えてから行うことになる日程について説明した。こうして午前中に四つの対象を指導することになったが、午後はどこを見ることになり、それに昼食はどうすることになるのかと随員たちはいらいらした。

いつだったか、総書記が人民軍の某部隊が進めているある建設現場を視察していた際、一人の女兵士が涙ぐんで随員たちに訴えた。

「でも私たちには交替があるじゃありませんか。けれど最高司令官同志には休息がありましょうか。いっときの休息もなさらずに、いつも強行軍をお続けになっていらっしゃる最高司令官同志のことを思うと、どうにもいたたまれません。私たちの最高司令官同志の健康をくれぐれも大事にお守りになって下さい」

この日、総書記は土ぼこりの立つ諸建設現場を視察して、科学者用の住宅を立派に建て、戦時の英雄戦士たちの貴い霊魂が眠る祖国解放戦争参戦烈士墓を最上のレベルで造営すべく、瞬時も休まず現地指導を続けた。

それで、総書記に随行した幹部たちは、人民や兵士たちの切望をこめて、あまり無理をなさらぬようにと、真剣な思いで提言したものである。実際、その当時の2カ月ほどにしても、総書記は全国各地を巡り、日中は人民軍の各部隊や人民経済諸部門の現地指導を精力的に続け、夜は列車内で執務をとるなど、一度としてゆっくり休む暇がなかったと、随員たちは憂慮していたのである。

随員たちの真情のこもる言葉に深く心を動かされてか、しばらく黙然としていた総書記はやがて、私はこの5月と6月、金日成（キムイルソン）主席と金正日国防委員長の指導業績がこもる平壌市と咸鏡（ハムギョン）南道、平安北道、平安南道、慈江（チャガン）道、江原（カンウォン）道の工場・企業、サービス機関、給養機関、文化・厚生施設、人民軍の諸部隊を現地指導したものだと、静かな口調で語った。思い返してみると、その間実に多くの道を歩み、数多くの単位を現地指導していた。国家科学院生物工学分院の芝研究所、平壌市妙香（ミョヒャン）山登山少年団野営所、馬息（マシク）嶺スキー場の建設現場、松涛園（ソンドウォン）国際少年団野営所、麻田（マジョン）海水浴場、五聖（オソン）山陣地……。

総書記は現地指導のその日々を思い返しているのか、じっ

とある一点を凝視していた末、次のように語った。

**「私がこの2カ月間現地指導をした対象が、公開されたものだけでも60余にのぼりますが、それこそ金正日同志と同様、昼夜を分かたぬ強行軍を続けました。わが国を世界の人たちが羨望する社会主義強盛国家に打ち建てなければならないとされた金日成同志と金正日同志の遺訓を私が最先頭に立って貫くべきであって、誰が私を代行してくれましょうか」**

実に、人民への滅私奉仕の精神に燃え、人民の安寧と幸せ、子孫万代の繁栄と輝かしい未来をめざして、人民を訪ね、兵士たちを訪ねて、雪の日も雨の日も四季を問わず、空路や陸路、海路を分かつことなく、うまずたゆまず続ける金正恩総書記の超強度強行軍現地指導は、いかなる人物も代行できないことである。

## 首都の中心部に出現した海洋

金正恩総書記が綾羅（ルンラ）イルカ館を2度目に視察したのは、2012年6月30日のことであった。

2カ月前の4月30日、ここを訪れた総書記は、綾羅イルカ館を人民の文化・情緒生活の場に作り上げるための細心の指導を行っていたが、この日は開館の準備状況を確かめるべく、足を運んだのであった。

観覧席に入り、公演水槽の欄干の前に立った時、それまで静かだった水槽の水がにわかに揺れ出したかと思うと、何匹ものイルカが水面上に跳び上がり、芸を始めた。一対のイルカはさざ波を立てながら総書記の前へ近づき、体を伸ばして頭を下げもした。

元来怜悧で神経の鋭敏なイルカは、その棲息地から他所に移されると、辺りを警戒し、１週間、ときには20日ほどもじっとして動かず、餌も食べようとしないという。ところで、その日はこれらのイルカがここへ移されて何日も経っていない時だったので、調教師たちは総書記を迎えていらいらしていた。

ところが、それらのイルカが金正恩総書記のお出ましを歓迎してか、みんな喜び勇んでいるかのような動作をして見せているのである。驚いて目を見張っている人たちを見回した総書記は、これらのイルカは他の国の狭いイルカ館から、ずっと大きくて明るい綾羅イルカ館に移されたので、きっと喜んでいるのだろうと言って、愉快そうに笑った。

総書記は、イルカたちに毎日新鮮な魚を与えうるよう、対策をきちんと立て、イルカに「苦難の行軍」をさせてはいけない、イルカには意識というものがないのだから、「苦難の行軍」をしてまで人民に奉仕しようとはしないだろうと笑って言った。ユーモア混じりに言った言葉に人々は楽しそうに

笑ったが、そこには、何よりも重要なことは餌の問題だと改めて強調する深い意味がこもっていた。

　そのあと総書記は、綾羅イルカ館の室温が高い、イルカ館の中に入ったばかりの時は海の世界にいるようなすがすがしさを覚えはするが、室温が高すぎてしばらくすると暑苦しい思いがする、こんな状態で公演を見ているとみな汗だくになるだろうと言った。

　幹部が室温を24℃程度に保つことにしますと答えるのを聞いてから、総書記は、「**綾羅イルカ館は公演の準備をきちんと行って、7月末に案内放送で『蒸し暑い夏の日に平壌市民の皆さんを神秘な海の世界にご案内致します』と紹介して公演を行えば、雰囲気が大変よくなるだろう**」と言った。

　総書記は、今日綾羅イルカ館をずっと見たところ、今なお少しばかり物足りないと思える部分がある、やがて綾羅イルカ館がオープンすれば、それからは年中休まず運営することになるのだから、全般的に点検してみて、不備な部分は残らず直して完全無欠に仕上げることだと強調した。

　それから１カ月近く経った2012年7月25日、綾羅イルカ館は落成の日を迎えた。

## 科学者たちのための金座布団

延豊(ヨンプン)湖は平安南道の安州(アンジュ)市と价川(ケチョン)市にはさまれた人造湖である。この湖の岸辺は風景にすぐれ、空気も澄んでいるので、休養所の位置としてはうってつけである。この名勝の地に、金正恩総書記は科学者たちのための最上クラスの休養所を設ける措置を講じたのであった。

2014年正月、新年最初の現地指導対象として国家科学院を訪れた総書記は、現地指導を終えるとその足で、科学者用休養所の敷地を自ら定めるべく、昼食も取らずに延豊湖に向かった。

うっそうと樹木の茂る閑静な湖畔は、当時、カラノアザミやトクサなどに覆われた、秀麗な自然の風致を保っている深閑とした地であった。前年にも２度にわたり船の上から湖の岸を見て回り、休養所の適地を内定していたが、この日は冷たい雪が足首ほどに積もっている建設予定地を踏んで歩き、科学者たちの休養所としては実にすぐれている、夏ここへ来てみた時は空気が澄み、樹木が青々と茂り、景色が素晴らしかった、今日こうして見ると、冬の風景もそれに劣らず素晴らしいと大いに満足した。総書記はその場で、休養所の設計から資材の確保、建設陣の編成に至る一切の対策を綿密に講じた。

工事が始まって間もない５月の末、総書記は多忙な現地指

導の最中にも、時間を割いて延豊科学者休養所の建設現場を訪れた。

当時、建設現場のここかしこで幾つもの建物の骨組み工事が進行中であった。総書記は、ベッドルーム用建物の外部形成案と骨組みだけが出来上がっている建物を何度も代わる代わる見比べながら、このベッドルーム用建物の形成案は山地の建物らしい味わいに欠けている、屋根に傾斜を持たせた外部形成案を作成することでベッドルーム用建物の陸屋根形式をかわるがわる傾斜屋根形式に変えるとよかろうとして、その場で設計を直すようにした。ほかにも総書記は、駅から休養所までの道路の整備問題、渇水期に露出する湖底部位が見苦しくならないよう砂利を敷き、波打ち際には夢金浦の砂を敷いて砂場を造成し海水浴を楽しめるようにする問題、湖畔の前の道路からそれぞれの建物に通ずる道を引く問題、それにプロムナードと駐車場に青石を敷く問題など、すべての要素に関する建設の方向と方途について具体的な意見を述べた。

その数カ月後、総書記は再び休養所の建設現場を訪れた。完成段階にある休養所を満足げに見渡して、屋根の色は建物の性格に見合ったものを選び、工場で加熱塗装したばかりの屋根材を葺けば脱色を防ぎ、長持ちすると言った総書記は、建物の中へ入り、各部屋の隅々まで目を凝らして見た。

トイレや浴室の施工状況にもつぶさに注意を向けて、ささいな欠陥もあってはならないとして、それらをいちいち指摘した総書記は引き続き、屋内遊泳場、野外遊泳場、電子図書室を順に見て歩き、そのどれもよくできていると言った。ついでに休養閣５号棟の玄関ホールとベッドルーム、間仕切り壁と机、洗面室を満足げに見てバルコニーに立ち、総合サービス所の建物や各休養閣を眺めて、建築形式がユニークで見栄えがするとたたえた。

総書記は国家科学院の責任幹部たちに向かって言った。

**「延豊科学者休養所はまさに科学者、技術者のための金座布団です」**

## 全人民学習の大殿堂に

2015年2月26日、金正恩総書記は、肌を刺すような冷たい川風が吹き、土ぼこりの舞う科学技術殿堂の建設現場を視察した。前年6月、大同江上のスク島を見て回った総書記は、ここに科学技術殿堂を建てようとし、スク島を科学技術の島として開発することを公布する措置を取っていた。

建設現場を見て歩いた総書記は、科学技術殿堂は科学者や技術者だけでなく、全人民が心行くまで学習しうる学びの殿堂、先進科学技術の普及センターにならなければならない、

言うなれば、車がひっきりなしにガソリンスタンドへやって来てガソリンの給油を受けるように、大勢の人たちが科学技術殿堂にやって来て、間断なく最新科学技術を学ぶようにすべきだ、科学技術殿堂は科学技術情報を次々に流動させる普及拠点になるべきで、水が淀んでいるような情報のたまり場になってはならないと指摘した。

続けて総書記は、科学技術殿堂の建設では人民の志向と要求、利益を最優先、絶対視し、科学技術の発展に要する資金の出し惜しみをすべきではないとして、科学技術殿堂の建設で持ち上がっているすべての問題を残らず解決する措置を講じた。

その年の10月27日、総書記は完成なった科学技術殿堂を訪れた。

鳥瞰図の前で、建物の外観からして科学の世界を象徴する巨大な原子構造の模様をもってユニークな形に仕上げられ、太陽光と地熱などの自然エネルギーによる照明や冷暖房を行う省エネ型の建物、グリーン建築として立派に建てられたという説明を聞いた総書記は、科学技術殿堂の外観を眺めて、科学技術殿堂は大変な出来栄えだ、実に雄壮だ、科学技術殿堂が建設されたお陰で、スク島が見違えるほどに様変わりした、スク島の以前の姿はもはやどこにも見られない、スク（ヨモギ）が生い茂っているとしてスク島と呼ばれていた中州が科学の島、学びの島になったとし

て、大きな満足を表した。

総書記は、科学技術殿堂についての総合的な説明を受けて、科学技術殿堂の機能上の基本は電子図書館としての機能だとして、科学技術殿堂はあくまでも展示品を見物する展示場ではなく、新しい科学技術を習得する学び舎になるようにしなければならないと強調した。

翌2016年1月1日、金正恩総書記は全人民学習の大殿堂として立派に建設された科学技術殿堂の落成式に臨席して落成テープを切った。

この日、科学技術殿堂の処々を見て歩いた総書記は、私は今日科学技術殿堂の落成式に参加して落成テープを切ることで新年の現地指導を開始したとしてこう続けた。

**「科学技術殿堂の落成式を新年元旦に行ったのは大きな意義があります。われわれは本年最初の活動として科学の門を開きました」**

思えば、前年10月、朝鮮労働党第７回大会が開かれることになるというニュースが流された当時、世界の焦点が2016年を迎える朝鮮に合わされ、なかんずく金正恩総書記のこの年の最初の革命活動に注目したものである。

そのような時に総書記は、全人民学習の大殿堂である科学技術殿堂に当年最初の現地指導の足跡を刻んだのであった。

## 陽徳地区に広がった文明

平安南道の東南部にある陽徳地区は、古くから名の知られた温泉が群がる地帯である。また国の東部と西部の鉄道の中間地域を占め、四つの道に挟まれていることから幾つもの郡と里に接しており、さらに平壌—元山観光道路が近くを走っているので、交通の便にも恵まれている。

人民に開けた文化生活をと念願して絶えざる思索と労苦を重ねている金正恩総書記は、国の豊富な温泉を種々さまざまに開発し利用することについて深く思いを致し、諸温泉に関する資料を深く検討した上、陽徳郡の温泉地区に療養もすればのんびりと観光もしうる総合的な近代的温泉観光文化地区を造成する構想を抱いて、深夜、現地指導の途についた。

その日は土用の暑さがまだ残っている2018年8月のある日であった。郡の幹部たちに会った総書記は、郡内の温泉地区にある各療養所の実態と温泉の利用状況について詳しい説明を受けた。

陽徳郡の諸温泉は硫黄成分が多く、ラドンは極めて少ない高温温泉で、湧出量は非常に多く、薬理作用と治療効能にすぐれており、温泉水の成分を分析した結果、汚染性の評価指標であるアンモニウムと亜硝酸、硝酸イオンや病原性微生物は皆無で、一切汚染されていない温泉だと判定されていた。ところが、それまで治療条件がそんなにもすぐれた温泉が効

果的に利用されておらず、この地区の療養所や温泉治療場はどれも衛生的・文化的に立ち後れた状態にあった。

総書記は、現在全般的に温泉場の内部施設が古びてそれらの環境が思わしくないが、今度モデルとして当地の温泉場を立派に仕上げ、引き続き全国各地の温泉場をすべて一新すべきだと言った。

そのあと、丘や山、くねくねした峠道を登り降りして陽徳郡温井(オンジョン)里一帯の渓谷の温泉場を見て歩き、それぞれの温泉の湧出量や周辺の環境をじかに確かめた。にわか雨に濡れながらも、80℃以上の熱湯が湯気を立てて勢いよく湧き出る湧出口に手を当ててみては、何か宝石でも発見したかのように顔をほころばせて喜んだ。

総書記は山が高く、樹木が生い茂り、空気が澄み、風致の秀麗な陽徳郡は温泉休養所と療養所を設けるのに適している、この地区には総合旅館を大きく建てるべきだとして、その敷地も選定した。そして、周辺には自炊用宿所を見栄えよく配し、各種の近代的な総合サービス施設を建設するとよい、また野外で温泉浴もできるよう、屋内浴場だけでなく露天浴場も設け、個人浴室、大衆浴場、治療浴場など、各種の温泉浴サービスを提供しうるようにすることだと言った。

総書記はさらに、温泉地区に治療を目的とする総合的な療養所も建て、低層及び平屋造りの住宅を適切に組み合わせて

配して、山間地帯の温泉休養地村にふさわしい味わいがかもし出されるようにすべきだと言った。

総書記は、わが国にはすぐれた温泉地が多々あるが、温泉文化は発達していない、人民の健康の増進とより開けた文化・情緒生活に役立つよう、全国すべての温泉地の垢を漸次落とさなければならない、そこでまず、陽徳郡温泉地区の開発を全国のモデルとして、国を代表しうる高いレベルで進めることによって基準を定めなければならず、そのためにはまず、設計を世界的な趨勢と発展する現実に即応して手落ちなく、しっかりとしなければならないと強調した。

また、温泉客が交通上の不便を覚えないように、もよりの駅も山間駅らしい特色が生かされるよう立派に建設し、道路の舗装も質を落とさず念入りに行い、なかにも温泉地区周辺の国土環境の改善を先行させ、山林の造成にも力を入れるようにと言った。

最後に総書記は、今後温泉を開発し、利用する場合、温泉水の成分と効能を正確に分析し、営業に関する法規も制定して、国の貴重な天然資源を国家の統制下に置くことで、それらが全人民と子孫たちが享有しうるようにしなければならないと指摘した。

金正恩総書記の献身的な労苦により、今日、陽徳地区には陽徳温泉文化休養地が開発され、人民の笑い声が高らかに響いている。

## 羅先市の奇跡

2015年8月、朝鮮東北辺の都市羅先(ラソン)市は思いもよらぬ豪雨に見舞われて甚大な被害を蒙った。

22日未明の４時頃から降り始めた雨が、夜が明ける頃には全天が墨を流したような黒雲に覆われて稲妻が走り、雷鳴がとどろき、篠突く雨が降り続いて、全市が深い洪水に浸された。

水に流される岩と岩がぶつかって雨の中に火花を散らし、根こそぎの大木にぶつけられてアパートが二つに割れ、家々があっという間に水中に消えてなくなり、市街は泥水の海に変じた。被害は莫大を極めた。

羅津(ラジン)地区と先鋒(ソンボン)地区の住宅は見る影もなく倒壊し、鉄道の路盤は沈下し、光ファイバー通信ケーブルはずたずたになって羅先市内の通信は杜絶し、水道も断水した。市民たちは思いもよらぬ人命や家財の大被害を前にして、茫然自失した。

8月27日、金正恩総書記は朝鮮労働党中央軍事委員会拡大会議を招集した。ここでは、羅先市の被害の復興問題が主要な議題として討議され、強力な被害復興戦闘連合指揮司令部が組織された。ついで、人民軍に羅先市の被害を復興せよとの最高司令官の命令が下された。人民軍将兵は一斉に奮起して祖国の北辺の地に急行し、昼夜を分かたぬ突貫工事を繰り広げた。そんな最中の9月17日、総書記は800㎞もの空路、水

路、山路を経て、羅先市に急行し、被害の復興建設を現地で指導した。

　当地で総書記は、指揮メンバー一人ひとりの手を取り、わずか数日にしてすべての建物の壁を築造したのは人民軍ならでは不可能な奇跡的成果だ、爆風のように、火薬に火がついたような猛スピードで壁を積み上げた、と繰り返し激賞して、こう述べた。

　**「財宝の中でも最高に貴重な財宝は人民の信頼です。われわれは人民の信頼さえあればそれ以上望むことはないという観点に立ち、滅私奉仕の気構えで、人民の信頼に報いなければなりません」**

　続けて、わが党は人民に奉仕し、人民により幸せな、豊かな生活をもたらすべく闘う党であり、羅先市の被害を復旧することは、単に自然の災害を拭い清めるだけのものではなく、わが人民の胸深くにあるわが党への信頼を守る聖なる闘いであると、力をこめて語った。

　人民軍将兵はその後、総書記の命令を貫くべく奮闘し、定められた期限内に最上のレベルで住宅の建設と周辺の整理を完全に終える輝かしい成果を収めた。

　10月7日、再び羅先市を訪れ総書記は、先鋒市白鶴（ペクハク）洞（当時）を視察した。現場の幹部たち一人ひとりの手を取り、人民軍が羅先市の被害の復興を完了したとの報告を受け、

新築の住宅を私が先に見て回らないでは気持ちが収まらないようでやって来たと言った。そして、わずか30数日にして今一つの仙境村が生まれた、わが人民軍はいかに困難かつ膨大な課題であっても、常に無条件遂行している、私は人民軍を固く信じていたと語った。この日、総書記はわずか１カ月余りで立派に建てられた文化住宅地区を長いこと眺めて、羅先で発揮された人民軍将兵の偉勲を考えると胸が熱くなり、世界に向かって声高く誇りたい気持ちを抑えることができない、記念写真を撮って帰ろう、そうしないではここを離れられそうにないとして、被害の復興建設に参加した数万にのぼる軍人全員が集まるのを長時間待ち、記念写真を撮ってから羅先市を後にした。

# 常に人民の中に

## 親しく病院を見て歩き

2014年3月21日、金正恩総書記は、前年に建設された柳京（リュギョン）歯科病院の医療サービスの実態と管理運営の状況を確かめ、市民たちが柳京歯科病院のお陰をいかにこうむっているかをじかに確かめるべく、現地を視察した。

この日、治療椅子に座って治療を受けていた患者と医者たちは、思いもよらず総書記の訪問を受けて、みんな「万歳！」「万歳！」を叫んだ。

総書記はそんな彼らに向かって、私にかまわず治療を続けなさい、治療の様子を見ましょうと言い、患者たちが無料で治療を受けていることをわが事のように喜んだ。

治療を受けていた一人の老婆は椅子を降り、総書記の前へ走り寄って膝まずき、「元帥さまのお陰でこんなにも立派な病院で治療を受けています。これ以上の幸せがどこにありましょうか」と言って深々と頭を下げた。総書記は彼女の両腕を取って立ち上がらせ、気をお静めになって早く治療を受けるのです、と２度、３度と促したが、老婆は総書記の腕をつかみ、こみ上げる激情を抑えることができないでいた。彼女だけではなかった。待合室でも廊下でも患者や家族たちが総書記を取り巻いて謝意を表した。

総書記は、各治療室と歯科技工室、補綴室その他処々を見て歩き、１日の来院患者は何人ほどか、設備の状態はどうか、医薬品に不足を来たすことはないか、などと医療サービスの実態や管理運営の状況を具体的に確かめた。

待合室にいる患者や家族、治療中の患者にも会って、どんな治療を受けに来たのか、どこが痛むのかと聞きもすれば、医者たちには治療に誠意を尽くすようにとも激励した総書記は、病院に大勢の患者がやって来るのを見ると、医療サービスが活発に進められていることが分かる、柳京歯科病院を建てて本当によかったと言った。

続けて総書記は、柳京歯科病院は、人々の健康の増進に積極的に寄与しなければならない、国が人民のために建てた病院なので、宣伝用、広告用になってはならない、柳京歯科病院は見学用の病院ではなく、実質的に治療を行う病院、人民に奉仕し、わが国の社会主義保健医療制度の優越性を誇示する病院にならなければならないと強調した。

このように柳京歯科病院を訪れて治療状況を具体的に確かめた総書記は、暫時の休息も取らず、玉流（オンリュ）児童病院に向かった。

ここでも状況に変わりはなかった。静かに病院の玄関に入る総書記に気がつかなかった人たちは、その少しあと、それと知って驚きかたずを飲んだが、はっと我に返り、一斉に総書記を取り巻いた。

建設して間もない病院であったので患者が多く、それも児童病院なので、子供１人に２人、３人と付き添ってくる人たちもいるせいで、柳京歯科病院より混んでいた。

人々の健康の増進に役立つ近代的な病院を建てなければならないとして、建設の最中に２度も建設現場を視察し、開院後もまた子供がどれほどその恩沢に預かっているかとして病院を訪れ、患者の治療状況をじかに確かめる総書記の深い恩情に感動して人々は深々と頭を下げ、また下げた。

## 正月元旦を院児たちとともに

2015年1月1日、金正恩総書記は新年の辞を終えると、その足で平壌愛育院と育児院を訪れた。

駆け出してきてその胸にすがる子供たちを抱き上げた総書記は、頬をやさしくなでながら、新年に大きな福を授かり、体も心も強くすくすく育つのだよとして、院児たちを祝福した。

総書記は、新年の辞で全国の愛らしい幼児たちにもっと明るい未来をと祝福してみると、平壌育児院と愛育院の院児たちに無性に会いたくなったのだ、親のいない子たちのための住まいを新築し愛に飢えているこの子たちと一緒に元旦をともに過ごせることになって気持ちがとてもよい、育児院と愛

育院の子たちはいつまでも今日を記憶し続けるだろうと、満足した面持ちで言った。

そのあと総書記は、食事室、保育室、教育室、寝室、水遊び場、知能遊び部屋などを見て歩き、院児たちがお正月をどのように過ごしているかをこまごまとわが目で確かめた。

院児たちは、「元帥さまが贈って下さったきれいな服を着て、魚や肉、ドロップ、菓子、パン、リンゴ、モモ、はちみつなどを食べています」と、目を輝かせて言った。

総書記は平壌育児院の２階の知能遊び部屋をのぞいてみた。そこでは保育員と幼児たちが一緒になって知能遊びをしていた。遊び卓のかたわらにあぐらをかいて、わが子の可愛らしい遊びに目を奪われている父親さながらに、絵合わせをする幼児たちを頼もしそうに眺めていた総書記は、数字合わせや絵合わせを上手にしているとしてその子たちをほめた。

総書記は、院児たちは確かにみんな丸々として肉付きがよい、生活環境がよいと、子供たちの発育もこのようによくなるものだと言った。

知能遊び部屋で立ち上がり、外へ出ようとした総書記は、本立てから『朝鮮語を習いましょう』を抜き取って見て、幼児用知能教育図書を立派に作るようにと強調した。そして、家柄のよい家庭でしつけられながら育った子と親のしつけを受けるこ

とができなかった子のレベルには差がある、両親のレベルが高いと子たちのレベルも高くなるとして、こう続けた。

院児たちが国のすぐれた働き手に育つかどうかは、全的に保育員と教養員の資質とレベルのいかんにかかっている。すべての保育員と教養員は院児たちを未来の立派な働き手に育てることが、わが党の信任と期待に応えることになるということを肝に銘じ、任された保育と教育に鋭意専心しなければならない。保育員と教養員は院児たちにとって、半ばは母親、半ばは先生にならなければならない。つまり、院児たちの真の母親、真の教育者にならなければならない。育児院と愛育院は普通の託児所や幼稚園とは違って、家庭教育と学校教育、社会教育が密接に結びついている特殊な場だと言える。院児たちは、保育員や教養員の姿に自分の母親、自分の先生の姿を見る。だから保育員や教養員の言動の一つ一つが院児たちの目にカメラのように映り、それはそのまま院児たちの成長に直接の影響を及ぼすことになる。……

この日、総書記は愛育院の院児たちの迎春公演も観覧し、子供たちの踊りや歌が終わるたびに真っ先に拍手を送った。

終演後、総書記は子供たちを抱き上げて公演を立派にしたとたたえ、みんなと一緒に記念写真を撮った。

長時間平壌育児院と愛育院で子供たちとともに過ごした総書記は、今日は実に気分がよい、院児たちがこんなにも立

派な家で、顔に一点の陰りもなく、楽しく歌を歌い、踊りを踊って正月を過ごしているのを見たので、本当に気持ちがよい、われわれが歯を食いしばって革命に励むのも、ほかならぬ子供たちの笑いを守るためなのだと言った。

## 大会場で新生児の名付け親に

2014年4月、金正恩総書記の臨席の下に、朝鮮人民軍第１回飛行士大会が開かれた。

大会は成功裏に進められて閉会が定められた。ところが、意外にも総書記は自席に座り直して口を開いた。皆さんと今一つ討議したいことがあると言って、次のような話をした。

しばらく前、人民軍の某飛行連隊を視察した際、一女性飛行士に生まれたばかりの男の子の名付け親になろうと約束したが、まだその約束を果たせずにいる、なんとも申し訳ない、と。

先月6日、総書記はある飛行部隊で女性飛行士たちの飛行訓練を見た後、夫婦飛行士たちはわが家事よりも国事を一層重視する愛国者だと大きくたたえ、私が平壌に帰ってからも、皆さんを見たくなるたびに取り出して見ることができるよう、夫婦飛行士の家庭別の写真をそれぞれ一緒に撮ろう、と言った。

こうして、ある夫婦飛行士が自分たちの順番が来て写真を撮

ったが、女性飛行士が何か言いたそうにしながらも口を開けずにその場でもじもじしていた。そんな様子を見て茶目な部隊長が、彼女は数日前男の子を産んだばかりで、まだ名前が付けられていませんが、最高司令官同志にわが子の名付け親になって頂けたらとしてぐずついているようですと、助け船を出した。

総書記は周りの人たちを見回して、**「どうです。ここの部隊へやって来ると、思いもかけないことを懇望される羽目になる」**と言って豪快に笑い、名前を付けてほしいというんだね、じゃあ、ちょっと考えた上で、２日後に名前を付けて送ってあげようと約束した。

大会の場で最高司令官のそのような言葉を聞いてあわてながらも、その日の出来事を思い返していた当の女性飛行士は、最高司令官の視線が自分に向けられていることに気づいておずおずと立ち上がった。

わが子の名はまだ付けていないのかねと尋ねられて、彼女は、最高司令官同志が名前を付けて下さるとおっしゃったので、まだ付けていません、と答えた。

総書記は名前をまだ付けていないということなら、ここで名前を付けましょう、としてこう続けた。

**「その子が将来飛行機に乗るかどうかは分かりませんが、飛行士になって祖国の空を守ることになればよく、ほかのことをしても、汚れのない清らかな良心をもって党を支え、透徹した**

**愛国心に燃え、祖国の繁栄を目指して一生、忠誠の道のみを歩めという意味で、名前を李忠道（リチュンド）とすればどうでしょうか」**

大会の参加者たちは一斉に立ち上がり、場内を揺るがさんばかりの万歳を叫び、歓呼した。

飛行士夫婦は壇上に駆け上がり、総書記の前で燃えるような誓いの言葉を述べた。

## 20分間の「特別講義」

2013年11月26日、金正恩総書記は平壌建築大学を訪れた。大学内の処々を見て歩いていた総書記は、美術実技室に入った。そこでは学生たちが絵を描いていた。

総書記は学生たちに、人物のスケッチをするのにどれほどの時間がかかるかと聞いた。一人の学生が５分間で出来上がりますと、自信たっぷりに答えた。総書記は、それでは10分ばかり待つから、ここにいる人たちの一人を選んで、人物のスケッチをして見るようにとして、随員の一人を指名しモデルになるようにと言った。

人々の視線はスケッチブックを前にした３人の学生に注がれた。美術実技室では鉛筆のさらさら走る静かな音だけが聞こえた。

学生たちの鉛筆の動きに目を向け、貴重な時間を過ごして

いる総書記をおもんばかり、大学の一幹部が学生たちが作った『建築形成設計作品集』を手渡した。

総書記はその１ページ、１ページを注意深く見て、上手に出来ているとたたえた上で、空間の表象能力と形態、比例、色彩に関する感覚がなければならないと指摘した。そして、どんな色をもって仕上げるかにより、建築物は完全に違って見えるとして、作品集のある一つの建築対象を例にとって丁寧に説明した。

いつしか10分が過ぎた。

総書記はスケッチをしている学生たちの近くへ行き、まだ完成していない３人の絵を注意深く眺め、スケッチの仕方を見ると、方法がそれぞれ違っている、頭から先に描く学生もいれば、体から先に描く学生もいる、前にいる２人の学生が描いたスケッチを見ると、一方は比例がよく合い、今一方は姿勢が整っているとして、長所と短所を一つ一つ指摘した。後ろの学生はスケッチをする対象の特徴をかなり正確に捉えている、この学生が定められた時間にスケッチを最もよく行った、人物のスケッチはその人物の特徴の一つだけを正確に捉えてうまく描写しても、形態が整う。……

事前に用意された講義ではなかったが、そのわずか20分の間に学生たちを魅了し、教員たちを驚嘆させた講義であった。

## 祝福された家庭

2012年9月4日、金正恩総書記は平壌市倉田(チャンジョン)通りの新住宅に居を定めた勤労者たちを祝福すべく、ある家庭を訪問した。

思いもよらぬ総書記の訪問を受けた家族たちは驚き、恐縮するばかりであった。彼らが気を取り直して感謝する言葉を受けて、総書記はにこやかに微笑み、新宅に入居されてお住まいになっている様子を見たくてお伺いしました、と言って一人ひとりの手を取り、中へ入った。

部屋を見て回った総書記は、生活上不自由な点はないか、電気は切れずによく入っているか、といちいち質問し、洗面室では水道のコックをひねって流れ落ちる水に手を濡らして見ながら、水がよく出る、いつも水がこんなによく出ると結構だとして満足を表した。

総書記は、家族は何人で、部屋数は何室かと尋ね、５人家族で、部屋は５室だと聞いて、それなら一人ひとりが一部屋ずつ占めて別々に寝ることも出来るわけだと言い、老婆には安楽椅子に座るようにと勧めた。

こうして床にあぐらをかいた総書記はあるじに、家族たちはどんな仕事をしているのかと聞いた。

息子は軍隊生活をしており、主人夫婦と２人の娘はともに教育者だと聞いて総書記は、一人残らず教育者だという家庭はそうざらにはないとして、教育に関して教訓になる話をした。

総書記は床に手を当てて見て、冬になったら部屋が寒くはならないだろうかと気づかった。

そのあと、もう新居入りしてしばらく住んでいるのだから、生活上不自由な点に気づいているから話せるだろうとして、住宅の造りはどうか、施工はちゃんと出来ているか、備え付けられた家具は便利なのかということは家に住む主人たちの意見を聞けばよく分かる、と笑顔で言った。主人夫婦は、暮らしに不自由を覚えたことは一切ありません、本当にこんな立派な家に住めるとは夢にも思いませんでした、と感謝の言葉を述べた。総書記は、家の住人がそんなにも満足しているなら確かによいと言える、私もこの家がたいそう気に入った、と満足そうに言った。

かなりの時間話を交わした総書記は、新居入りした家庭を訪れる時はマッチを持っていって贈るのが代々の風習だから、私もマッチを持参してきたとして、主人にマッチを手渡し、幸せを祈ると言い、祝いの酒をついだ。

主人は総書記の愛と慈しみにあふれた盃を押し頂き、「敬愛する元帥！　本当に有難うございます」と丁重に礼を述べた。総書記は、今日、マッチだけを持ってくることがはばかれて、カラーテレビと食器セット、児童用図書も持ってきたと言った。

『世界名作童話集』の入った段ボール箱のふたを手ずから

開いた総書記は、この家庭には童話集を読むだけの子供がいないから、大切にしまっておいて、孫たちが生まれたら読ませるとよいだろうと言った。

総書記が食器セット入りの段ボール箱を開けた時、輝くほどに美しい揃いの食器を見て、女主人が「あらっ、まあー」と嘆声をもらした。さすがに一家の暮らしを切り盛りする女性の心情はいかんともしがたいと言えよう。ここへ引っ越してきて、この素晴らしい台所の棚に真新しい食器を並べておきたいと念じていた矢先に、それら目のさめるような食器の一揃いを見たとたん、喜びのあまり、思わず嘆声を発したのであった。そのような女主人をにこにこと見ていた総書記は、またあると言い、随員にテレビを運び入れるよう指示した。母は何よりもテレビを好んで見ていますという主人の言葉に、総書記は、私が持ってきたテレビはちょっと大きすぎるかも知れないが、お婆さんはここの長い安楽椅子にお座りになって見たらいいでしょうと言って椅子の位置まで気づかった。

その後総書記は、今社会的に教員生活は容易でないとしてわが子を他の部門に就職させている人たちが多いが、この家庭では両親だけでなく娘さんたちもみな教員になって働いている、教育者は誰かに見られようが見られまいが、認められようが認められまいが、祖国の未来のために黙々と良心を捧げている愛国者だと大きくたたえ、家族たちと並んで記念写真を撮った。

その後、この家庭では喜ばしい結婚式が行われて、『世界名作童話集』の読者たちが生まれた。

この日、総書記はほかにも、３階２号と２階１号の家庭を訪ねて、新居の生活上不自由な点はないかと聞きもし、祝いの酒をつぎ、贈り物をした。

## 島の陣地に上がった歓声

2012年3月9日、日が昇る前の暗い夜明けの道を車を走らせてある港の波止場に到着した金正恩総書記は、小型の軍艦に乗り、椒島に向かった。

矢継ぎ早に襲いかかる大波と甲板に飛び散るしぶき。……

激しい海風に吹かれて、衣服の裾は旗のようにはためいた。さして大きくない小船なら一気に呑みこんでしまいそうな波濤が、次々に押し寄せては船べりを激しく叩いた。けれども総書記は、それくらいの自然の狂乱には別に驚くこともないというふうに欣然として四方を見渡していた。

指揮官たちがいらいらして、総書記に進言した。

「椒島に到着するまで、艦長室でお休みになって下さい」

「天気が悪く、風も冷たく激しいのですから……」

総書記は、私は兵士たちと一緒に航海し、艦の戦闘動員準備状態を確認したいと思っている、私は軍人たちとともに過

ごすのが一番よいのだと言って、司令塔に上がった。

　艦が椒島に到着すると、全島が激情に包まれた。

　迎接報告を行った指揮官をはじめ部隊の幹部一人ひとりの手を温かく取った総書記は、西海岸の前方陣地を頼もしく守っている椒島の兵士たちに会ってみたくてやって来たと言った。

　この日、総書記は、椒島防御隊の軍人たちが社会主義祖国を守る上で常に誇らしい軍功を立てるであろうとの期待を表明して、防御隊に双眼鏡と自動小銃を記念として贈り、全将兵を集めて記念撮影を行った。撮影後、軍人たちに手を振りながら歩みを移していた総書記は、兵営の向こうの山の麓で足を踏み鳴らしながら「万歳！」「万歳！」と叫ぶ軍人家族の女性たちに目を向けた。そして、あの丘の上でも軍人家族たちが私に向かって万歳を叫んでいる、この島の軍人家族は夫に従い遠くの離れ島にやって来て、困難な生活環境の中でも軍人たちの生活を支えるべく自分たちのすべてを捧げているのに、われわれがどうして手を振るだけで済ませえようか、軍人の家族たちとも写真を撮ろう、みんなを早く来るようにしなくちゃと言って、早く降りてくるようにと手招きした。

　軍人家族たちは歓声を上げながら走ってきて、子供のように総書記にまとわりついた。総書記は喜んでみんなと一緒に写真を撮った。

　総書記は、椒島の軍人たちの戦闘訓練や軍務生活の実態を

具体的に確かめるべく、長い時間を島で過ごした。

　こうして昼食時間がかなり過ぎて帰路についた総書記を、島の軍人や家族は総出で見送った。

　総書記は乗艦後も、別れを惜しむ軍人や家族たちからいつまでも目を離さず、随員たちに、波止場では海兵たちが歓呼し、椒島の峰でも軍人たちとその家族や子たちが万歳を叫んでいるが、われわれもみんなして、彼らの姿が見えなくなるまで手を振ろうと言い、長いこと手を高く上げて振り続けた。

## 軍人家族に対する最大の信頼

　2014年12月8日、金正恩総書記は朝鮮人民軍第２回軍人家族熱誠者大会の参加者とともに、朝鮮人民軍第２期第５回軍人家族芸術サークル競演で合格した軍部隊軍人家族芸術サークルの総合公演を観覧し、そのあと、歴史的な演説を行った。

　総書記は、私は愛する戦友たちの夫人や母親である皆さんの熱烈な歓呼に迎えられ、わが党に固い信頼を寄せて従う皆さんの清い心に謝意を表し、同時に皆さんのひとかたならぬ革命的情熱、革命的楽天主義を見、そのことから受けた衝撃があまりにも大きくて、きっと挨拶の言葉を述べたくてここへ立ちましたとして、大会参加者たちに熱い祝福を送った。

　総書記は、それほど気丈で温かく、情に厚くも頼もしい皆

さんがほかならぬ私の愛する戦友たちの妻、偉大なわが民族の将来を担う子たちのやさしい母親、銃を取った夫たちと同じ塹壕でわが革命を死守していく信頼すべき革命の副射手、わが革命の永遠の炊事兵たちなのだと考えると、チュチェ革命偉業の勝利は確定的だという信念が一層強まったと、激情にかられて語った。

　続けて総書記は、われわれの革命的武装力は決して強力無双の現代的な打撃手段を備えているがゆえに強大なのではなく、このような副射手たちが、射手である夫のかたわらでしっかりと援助しているからこそ、人民軍はいかなる動乱の中でもいささかも動揺せず、わが党と革命を揺るぎなく防衛して、時代と歴史に対し担った自己の崇高な使命と任務を全うしているのだということを今さらのように確信することができたと述べた。

　総書記は、皆さんの目の光から無言の期待の声を聞き、皆さんの信頼と期待を瞬時も忘れず、皆さんの愛する夫や子たちが握り締めている銃であるわが革命武力を、最高司令官として永遠の勝利の道へと一層力強く導いていかなければという決心を抱くに至った、皆さんのような不屈の偉大な女性革命大軍を擁しているのは、わが党と祖国の大きな誇りであると語った。そして、「**この世の何物とも代えることの出来ない私の戦友であり、皆さんの夫たち、子たちであるわが軍人**

**たちの生活を、わが党の娘、わが党の嫁である皆さんに全的にお任せします」**と述べた。

総書記は最後に、みな健康な体で睦まじく過ごし、常に夫や子たちの力になって下さることを期待するとともに、朝鮮人民軍第２回軍人家族熱誠者大会の参加者やすべての軍人家族たちに戦闘的な挨拶を送る、と熱い思いをこめて語った。

大会場には、激情にかられて涙する参加者たちの「万歳！」「万歳！」の歓呼が響き続けた。

ひたすら人民のために

執　筆：李英宝

編　集：卓成日、朴成日

翻　訳：金時習

発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発行日：チュチェ110(2021)年6月

E-mail:flph@star-co.net.kp

http://www.korean-books.com.kp


내나라
ISBN 978-9946-0-1990-1
9 789946 019901 >